

「家がいいね」 第131号

いせ在宅医療クリニック 広報月刊紙

2015. 4. 1

月が替わり人も替わるが、花は変わらさず？

花は季節を忘れません。

それでも、お待たせとばかりに今年は一気に満開です。身体も心も春を感じられるのは嬉しいですね。花にしても毎年変わるの当然のこと。しかし、世の人は思い通りにゆかないと不安を訴え嘆きます。変る季節を自然に受け入れて咲く花のように、素直な生き方をしましょうよ。



「住み慣れた家で最期まで生きる」

ご飯が食べられなくなったらどうしますか？



3月に聴きました。滋賀県永源寺のお年寄りの顔は、土付きの作物のように生き生きとしています。小さな地域を、大切に介護と医療で守り、自然の死が訪れるまで不安を持たずに生きています。右は花戸医師との近著です。

伊勢のこの先は、自分の頭で考えよう

3月2日の議会だよりとして、翌日の中日新聞の地方版の記事に新伊勢総合病院建設が「建設コストの高騰が続く中、現時点での総事業費は建設工事費以外に造成工事、現病院の解体、駐車場の整備、医療機器整備などを含めて147億円。4分の3を病院事業会計が起債。残りは一般会計出資金で負担する」

え、何や？

日赤の建設費を超えそうな勢いですし、いずれ増額になるでしょうね。伊勢の市民が、もう一つの日赤を作って将来負担するということです。

6億円余の港開設を巡った市長交代劇の記憶があります。コンパクトな病院ではダメですか？

佐治晴夫先生 伊勢講演会

「終わりよければ」いせの会 後援

5月24日(日) 15時～17時

神宮会館 大ホール 有料申込制

「宇宙に学ぶ人生の歩き方」

「これから」が「これまで」を決める

私たちは宇宙のひとつかけらとして繋がっています。そんな不思議の命なのに争いが続きます。俯瞰した見方も必要です。佐治先生が、がんの術後にもかかわらず、皆さんに親しく話される機会を作っていました。



みえ生と死を考える市民の会 定期講演会

6月21日(日) 13時～15時

津市 三重県総合文化センター

アルフォンス・デーケン先生

(哲学者・死生学提唱者)



「輝いて生きるために」

「ユーモアのすすめ」

人には避けられない死があり、自分の人生は自分しか生きられない。しかも1回限りの人生です。ユーモアを持って、輝いて生きるに値する時間が待っています。

訪問診療への同行をお願いします

4月から6月、3人の研修医が1か月の期間でクリニックに研修配属されます。未来の在宅医をぜひ患者さん・ご家族も共に育ててください。

大型連休期間のお願い

4月29日(水) 祝日休診

30日(木) 定期休診

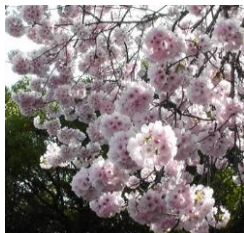
5月 1日(金) 開院

2日(土) 開院

3日(日) ～6日(水) 祝日休診

7日(木) 定期休診

(在宅患者さんには、24時間対応します)



自宅での人生を 最期まで支援します

〒516-0805
三重県伊勢市御園町高向 927
電話 0596-20-8104
ファクス 0596-20-8105
メール homecare@kr.tep-ip.or.jp
ホームページ http://isezaitaku.com